

電波伝播実験とモバイル運用

JJ1SXA 池

今年の電波伝播実験は、大分昔に戻ってモバイルホイップアンテナのみでの運用、実験と言うことで、かなり新鮮に感じた局が多かったように聞いています、私も、本来の240グループの電波伝播実験ということで大変うれしく思いました。

そもそもモバイル運用というのは、走行中の車から運用するものと、永年そのように解釈していましたが、他でワッチしたり、**CQ** 誌等に発表される記事を読んだりすると、駐車していてもモバイルシャックからの運用であれば、それをモバイル運用と言うようで、アンテナもモバイルホイップをビームアンテナに取り替え、あまつさへ発々を回しての運用まで含まれるようで、私の感覚とは大分違います。

私の場合は、普段の走行状態のモバイルホイップ使用でも、長時間駐車しての運用は、モバイル運用では無く、**JJ1SXA/**(モバイル)というのは走っている時で、一時的な停車や短時間の駐車は別にして、駐車中の運用は、**JJ1SXA/**(移動地名またはエリアナンバー)だけでモバイルは呼称しません。

CW での運用も、モバイルと聞くと走行中のものだけとと思っていましたし、私も走行中に **CW** 運用をやりたいと、キーを何処に置くか、メモをどうやって取るか等、色々試行錯誤したのですが、モバイル **CW** 局と聞いても、実際に走行中の運用局は非常に少ないことを知ったのは、随分後になってからでした。

240グループは、やはりモバイル運用がメイン、ぜひ走行中のモバイル運用と長時間駐車しての運用とは区別してもらいたいと思います。

本題の電波伝播実験ですが、モバイルホイップアンテナで何処まで届くか、受信できるかをメインに考えてもらいたいものです。

今年は、余り遠方への移動が少なかったと思いますが、ロケーションを選べば **100Km** 圏内は交信できて当たり前の距離です、仕事の関係等もありますが、できるだけ遠方への移動を計画されることを望みます。

とは言っても、遠方への移動ができる局は限られると思いますので、他エリアの局に協力を仰ぐようにしなければいけません、普段から **PR** が必要です。

また、広範囲に展開すると、必ず交信できるとは限りませんし、スムーズに運用するためにはサブの連絡方法が必要となります、携帯電話が一番となりますが、他のバンド(**HF** や **2m** 等)の利用、そして、**VoIP** 無線という事になります、**VoIP** 無線の中では **echolink** が一番利用できそうで、**Wires** も利用可でしょうが、共々普段から馴染んでいないと使えません、然し、こちらには無関心の局、抵抗感のある局が多いようです、サブの連絡に携帯電話の利用は良くて、無線機を使う **VoIP** 無線が何故駄目なのか？ 分かりにくいところですが、一考を要する問題では無いでしょうか？

ともあれ、来年も **FB** な電波伝播実験にするよう頑張りましょう。